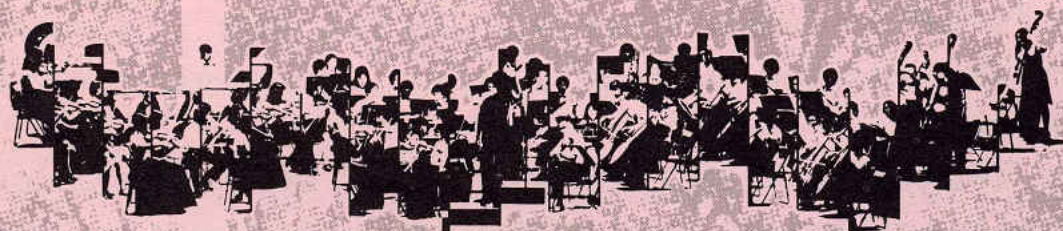


# 上越交響楽団

## 第10回定期演奏会

指揮 伊藤浩史



- ▶日時 8月23日(水)PM7:00  
▶場所 上越文化会館  
▶後援 上越市教育委員会  
BSN新潟放送  
新潟日報社  
上越音楽文化協会

●事務局 上越市住吉町 古海法雲宅 ☎43-2726



## \*\*\* ごあいさつ \*\*\*

'72年1月に市民オーケストラ結成を目指して、準備委員会の主催で「ニュー・イヤー・コンサート」を皮切りに、同年「上越交響楽団」の名称のもとに発足し、定期演奏会も回を重ね、本日ここに、第10回定期演奏会が開かれますことは、市民各位の温かいご支援の賜と深く感謝申し上げますとともに、当楽団としましても喜びを禁じ得ない次第であります。

その間、微力ながらプログラミングも一貫して、邦人作品の地方初演を試み、地方のアマチュアオーケストラの在り方を真剣に模索し、アマ・オケの陥りやすい、プロ追従主義・名曲、偏重を排し前向きな姿勢で根強く歩いてきたことを特色として意義に感じているものであります。

また、今一つの特色として、初期の指標である「市民オーケストラ」の通り、全て当地の出身者で編成し、演奏会においてもエキストラなしという難事を保持していることであります。全国にキラ星の如く散在する地方オケも、演奏会には殆んどが、プロのオケから楽員をエキストラとして大巾に移入し、大きく依存しているのが現状であります。メンバーはもちろん、指揮者、ソリストに至るまで当地の出身者で固められるのは、当楽団の誇りであるとともに、上越の音楽文化のレベルの高さを物語るものであります。

今後、6年間の歩みをもとに、更に大きく飛躍することを目指し、確固たるオーケストラに成長すべく団員一同心しておりますので、市民の方々の更に深いご理解とご支援をお願いし、ごあいさついたします。

上越交響楽団副会長 桜 沢 邦 美

### \* 演奏会のご案内 \*

ベートーヴェン第九演奏会

12月24日(日)午後2時 上越文化会館

パーカッションと金管楽器アンサンブルの夕べ

10月8日(日)夕方 上越南厚生会館

第11回定期演奏会

3月下旬

「田園」他



# \*\*\* プログラム \*\*\*

Le Carnaval romain op. 9  
序曲「ローマの謝肉祭」

Berlioz  
ベルリオーズ

The Comedians op. 26  
組曲「道化師」

Kabalevsky  
カバレフスキー

- I. Prologue プロローグ
- II. Comedians' Gallop 道化師のギャロップ
- III. March マーチ
- IV. Waltz ワルツ
- V. Pantomime パントマイム
- VI. Intermezzo 間奏曲
- VII. Little Lyrical 短れい抒情的な場面
- VIII. Gvotte ガヴォット
- IX. Scherzo スケルツォ
- X. Epilogue エピローグ

————— 休 け い —————

Sinfonie Nr. 3 op. 55 Es-dur《Eroica》  
交響曲 第3番 変ホ長調 「英雄」

Beethoven  
ベートーヴェン

- I. Allegro con brio アレグロ コン ブリオ
- II. Marcia funebre : Adagio assai 「葬送行進曲」
- III. Scherzo. : Allegro vivace スケルツォ! アレグロ ヴィヴァーチェ
- IV. Finale : Allegro molto フィナーレ! アレグロ モルト

# \*\*\* プログラムノート \*\*\*

序曲 “ローマの謝肉祭”

トロンボーン 鈴木昌治

トロンボーン無視の傾向が強い上越交響楽団において、今回の演奏会では、トロンボーンがセクションとしてステージに上れる唯一の曲です。この曲が発表された頃のベルリオーズは、彼があまりにユニークすぎるという点で敬遠されるばかりでした。なんとなくわかる所があると思いませんか。

この曲は、最初彼の歌劇「ベンヴェヌート・チェルリーニ」の第2幕の前奏曲として作曲されましたが、しかし、ベルリオーズは、よほどこの曲に自信があったのでしょうか。翌年に演奏会用序曲として発表し、やっと世に認められるようになりました。曲は全体に明るく華やかで、ベルリオーズの才能があふれんばかりです。特に最後の金管の和音に耳を傾けて下さい。この曲一番の聴かせどころと言っても過言ではないと思います。

トロンボーン一同、いじけずにガンバります。

組曲 “道化師”

D、カバレフスキー

オーボエ 橋本一栄

この曲は、ソビエトの高名な作曲家 ドミートリ・カバレフスキー（1904年ペテルブルク生）が、M・ダニエルの児童劇「発明家と道化師」のために作曲した音楽の中から10曲を選んで、演奏会用の組曲にしたもので、1940年にレニングラードで初演されました。ダニエルの劇は、旅回りの道化師の一座と、彼等の愉快ないたずらを題材にしたもので、カバレフスキーの音楽は、児童劇にふさわしい単純明快なスタイルで作曲され、その屈託のない楽しいしらが、青少年にも大人にも、広く愛好されています。

- |              |                                      |
|--------------|--------------------------------------|
| 1. プロローグ     | 行進曲風の軽妙な小序曲                          |
| 2. 道化師のギャロップ | 歯切れのよい急速な舞曲                          |
| 3. マーチ       | ゆっくりしたユーモラスな行進曲                      |
| 4. ワルツ       | 可愛らしい円舞曲                             |
| 5. パントマイム    | 悲劇的な無言劇                              |
| 6. 間奏曲       | スケルツォ風の曲                             |
| 7. 短い抒情的な場面  | シチリアーナ風のロマンティックな曲                    |
| 8. ガヴォット     | 優美なフランス舞曲                            |
| 9. スケルツォ     | ロンド風の明るく親しみ深い曲                       |
| 10. エピローグ    | 華麗なフィナーレ。終結部はティンパニーの強打を加えていっそう高潮します。 |



